

「TRIO」ブランド

JK10XY/天野

ケンウッドは6日、同社が2006年で創立60年を迎えることを記念して、「TRIO」ロゴをあしらったアマチュア無線機「TS-2000S(ブラックバージョン)」を60台限定で販売すると発表した。同社アマチュア無線製品取扱店で7月19日から8月21日まで予約を受け付け、希望者多数の場合は抽選を行う。オープン価格で、実売価格は22万円前後となる見込み。なお、運用には周波数・出力に応じたアマチュア無線技士の資格が必要。

同社は、ラジオ部品の製造などを行う春日無線電機商会として1946年に設立。1960年に社名をトリオ(TRIO)へ変更し、無線機・オーディオ機器のメーカーとして事業を発展させた。「TRIO」ブランドは同社を無線機のトップメーカーのひとつとして印象付け、現社名となる1986年まで使用されていた。

今回発売される「TS-2000S(ブラックバージョン)」は、1.9MHz帯～1200MHz帯(1200MHz帯はオプションで対応)をカバーするオールモード機「TS-2000S」のカラーリングとブランドロゴを限定仕様に変更し、オプション3製品を標準添付したもの。フロントパネルやメインツマミの色がブラックで統一され、フロントパネルや個装箱の「KENWOOD」ロゴは「TRIO」となっている。添付されるオプションは、連続したCQ呼び出しなどに便利な音声メモリー機能を実現するデジタルレコーディングユニット「DRU-3A」、表示周波数を音声で読み上げる音声合成ユニット「VS-3」、PCから本体のコントロールが可能になるラジオコントロール・プログラム「ARCP-2000」の3製品。また、本体背面には限定シリアルナンバーが付与されている。

加えて、購入者全員への特典としてコールサインプレートがプレゼントされるほか、購入者の中から抽選で6名に、1200MHz帯の運用が可能になるオプションユニット「UT-20」(工賃込み)が当たる。そのほかの仕様・定格等は現行の「TS-2000S」と同じで、送信出力は1.9MHz帯～50MHz帯では最大100W、144/430MHz帯では最大50W。

サブバンド受信機能としてメインの送受信部と独立して動作する144/430MHz帯受信部を搭載するほか、最狭50Hz(CWモード時)という狭帯域デジタルフィルターを実現するIF段からのDSP回路、リレー式オートアンテナチューナーなどを装備するハイエンド機となっている。

同社によれば、現社名となってからTRIOブランドの商品を発売するのは初めての試み。また、アマチュア無線機以外の商品でも同様の創立60年記念モデルを企画中としている。

製品画像はこちら

<http://journal.mycom.co.jp/news/2006/07/07/322.html>